

福浜議員要望項目一覧

令和4年度9月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(1) 新型コロナウイルス関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 第7波による感染者急増により、飲食店では再び客足が鈍り、厳しい経営状態となっています。各業界の実態を調査していただき、「売上減に対する補助金」等の支援策を御検討いただくよう要望します。 	<p>新型コロナ感染第7波については、随時、県内企業への影響調査等を実施しているほか、商工団体・業界団体等との定期的な意見交換や現在県が開設している「物価高騰対策・専門家サポート窓口」「国際経済変動対策窓口」等に寄せられる声等も参考にして、業況把握に努めている。</p> <p>これらの結果から、第7波に加えて、エネルギー・原材料価格高騰が幅広い業種に影響していることを踏まえ、売上や利益が減少した事業者が取り組む販売促進や機器導入等への支援、賃金引上げに取り組む事業者支援、飲食店向けの需要喚起策の拡充等について、9月補正予算で検討している。</p> <p>【9月補正】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ第7波・物価高騰に立ち向かう事業者支援事業 802,000千円 賃金アップ環境整備応援補助金 100,000千円 新型コロナ安心対策認証店特別応援事業 160,000千円 燃油及び原材料価格高騰・円安対策特別金融支援事業 1,000千円
<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応の病床確保の影響で、ガン治療などその他の疾病で、本来なら入院が必要な病状でも通院を余儀なくされている事例が一部であるようです。もちろんコロナ病床確保は必要だと思いますが、「バランス」について今一度再考の余地はないのか、御検討いただくよう要望します。 	<p>第7波の感染急拡大に伴い、医療機関の職員や職員家族の感染、介護度が高い高齢の入院患者の増加等により、医療現場における人員不足が大きな課題となっている。コロナ病床に限らず、入院機能を維持するには感染対策が重要であるため、各医療機関に検査強化やN95マスクの早期活用など、対策強化を促している。引き続き各医療機関と連携し、通常医療との両立を図りながら、喫緊の課題として、救える命を救う体制を強化していく。</p>
<p>(2) 県内ユーチューバーの人材育成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に若者世代に「刺さる」情報発信において「動画」の有効性は言うまでもありませんが、著名なユーチューバーの活用は、効果が高い反面、費用も高額というネックもあり、頻繁に活用という訳にはいかないと考えます。そこで、県内ユーチューバーの育成と積極活用に向けて、「人材バンク」の構築を目的に、テーマを設定した「PR動画の公募をコンテスト形式」で実施してはと考えます。御検討いただくよう要望します。 	<p>本県の自然・文化・食などの魅力を県内外に伝えることで地域への関心を醸成するため、令和元年度から、「とっつりの魅力発信PR動画コンテスト」を実施しており、今年度も実施することとしている。</p> <p>これまで応募いただいた方の中から、ユーチューバーとして県の情報発信に協力いただける方をリスト化する等、活用することを検討してみたい。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(3) 県民体育館の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民体育館は令和4年12月～令和6年1月にかけて「照明改修工事」が予定されていますが、近年のスポーツ競技はプロ化が進み、開会時のセレモニー等でも、観客を魅了する「ショーアップした演出」が当たり前になっていて、その際、照明の役割は極めて重要になっています。県民体育館は、県トップの体育施設であり、各競技団体の意向を出来る限り反映した改修となるよう要望します。 併せて県民体育館は、構造上、対戦するチームが「同じ出入り口」を利用せざるを得ない形になっていて、特に「プロチーム同士」が対戦の際には、演出面でも、選手の心情面でもかなりのマイナスという声を耳にします。また、B1リーグ（バスケット）では、4年後の2026年シーズン以降は、ホームゲームの観客席5,000席以上、入場者4,000人以上が求められていて、MAX3,470席の県民体育館での開催は、事実上不可能となります。近年中に、メインアリーナの改修が予定されていますが、上記の課題点を念頭に、改修プランを御検討いただくよう要望します。 	<p>今後の県民体育館の役割や機能を踏まえ、改修等の時期にあわせて関係団体の意見も伺いながら検討していきたい。</p> <p>なお、県民体育館のような、ホームアリーナ以外のアリーナで公式試合を実施する場合の入場可能者数は、「Bリーグ規約」で原則2,000人以上となっており、現状の設備で対応が可能であると伺っている。</p> <p>また、観客席5,000席以上のホームアリーナ、平均入場者数が2期連続で4,000人以上といった条件については、4年後（2026－27年シーズン以降）に始まる新B1リーグに参入するクラブチームに課せられた条件であるとも伺っている。（島根スサノオマジックのホームアリーナは松江市総合体育館）</p>
<p>(4) 電子教科書の積極活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい（LD等）や視覚障がいの子どもたちにとって、電子教科書の有用性は、積極的に導入が図られている県立の特別支援学校等で認知が深まっており、この分野で鳥取県は全国を牽引する存在だと伺っています。 一方で、市町村立の小中学校においては、市町村間や学校間で導入に対する「温度差」が大きく、子どもたちの「個別最適な学び」を保障する上で課題となっているようです。そこで、ライトハウスや発達障がい児の親の会等の支援を受けて、電子教科書の有用性を認識できる「研修会」を、県教委の働きかけにより、東部・中部・西部で開催していただくよう要望します。 	<p>小中学校、特別支援学校を対象とした教育課程研究集会において、ICT活用の意義や音声教材の活用例について研修を実施するなど普及を進めているところであり、学習者用デジタル教科書、音声教材の有用性について、市町村教育委員会、各学校や保護者への啓発について関係団体と連携しながら個別最適な学びの保障に向けて取り組んでいく。</p>